

様式例（法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」）

令和 3 年度の事業報告書

令和 3 年 2 月 1 6 日から令和 4 年 2 月 2 8 日まで

NPO 法人 DV 対策・予防センター九州

1 事業の成果

法人設立 1 年目ということもあり、資金調達の苦労はあったものの、今後の活動に活用できる資料の作成はできた。

各事業の内容については、別添「実績報告書」を参照。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の支出金額 (単位：千円)
①DV 加害者プログラムの開発及び実施	別添「実績報告書」参照	(A) (B) (C)	(D) (E)	0
②DV 予防教育プログラムの開発及び実施	別添「実績報告書」及び「予防教育事業 実施校一覧」参照	(A) (B) (C)	(D) (E)	特別支援学校向けプログラム開発  239 千円
③先進的な DV 被害者支援の取組み	②報告書記載の特別支援学校向けプログラムは先進的な取組みである。	(A) 1 月 (B) 唐津地区 (C) 1 人	(D) 特別支援クラス (E) 5 人	0
④その他、DV 対策に必要なあらゆる取組みの実施	別添「実績報告書」を参照	(A) (B) (C)	(D) (E)	0

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。
- 3 「事業費の支出金額」欄は、活動計算書の「管理費」は含まない。

## NPO 法人 DV 対策予防センター九州 実績報告書

(第1期：令和3年2月11日～令和4年2月28日)

令和4年5月5日

### 法人の目的及び業務

この法人は、DVの被害者及びその子どもたちの支援をさらに充実させるため、従来の支援から一歩進んだ先進的な取組みを行い、また、加害者に対しては、直接加害者プログラムの実施や被害者支援に資するよう、加害者の非暴力化つながる支援体制を新たに創設する。さらに、DV予防教育に関する事業を行うため、教育効果の高い手法や内容を明らかにするべく調査研究事業に着手または専門家と連携協力を行い、各学年の発達段階に応じたプログラムを作成する。これを学校現場に広め、将来のDV被害者、加害者を生まない社会作りに寄与すること及びこれらの知見を佐賀から九州、全国へ広げることを目的とする。

この目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) DV加害者プログラムの開発及び実施
- (2) DV予防教育プログラムの開発及び実施
- (3) 先進的なDV被害者支援の取組み
- (4) その他、DV対策に必要なあらゆる取組みの実施

#### (1) についての実施報告。

(別添、DV加害者プログラム修正版をご覧ください。)

加害者プログラムについては、全体のテーマとしては、「穏やかな生活を望むプログラム」(Program to expect calm life)と設定をして、これまでの被害者、加害者に関わる中で得られた経験を基に全18回のプログラムを作成した。内容は、DVの基礎知識からジェンダー意識、加害者性の構築、本人の困り感に関するアプローチなど、支援の要素を入れながら、暴力の責任、相手をコントロールしていたことの自覚を持ってもらい、特に「恥の感情」が暴力的な行動を喚起していたことなどを知ってもらうことを重視した。

残念ながら、第1期では、実施に係る予算や場所の問題など不足要素があり実施には至らなかった。また、このプログラムについては、匿名性の高さは必須だと思われるが、佐賀県の人口規模では、実施の難しさを実感する。さらに、暴力以外でも当事者の抱える課題が多様化しており、集団プログラムが本当に効果はあるのか、今後の国の取組みも注視したい。

#### (2) についての実施報告。

DV予防プログラムの実施については、代表の原、僧侶、助産師を学校の希望により派遣を行った。実績は、中学校23校(4,703人)、延べ55回の講演の他、職員研修1回、保護者会1回を行った。高校、大学については、5校(473人)5回のデートDV講演会。佐賀

県教育庁の依頼で、「小学校性の指導支援事業」では、小学校4年生以降で9校の実施、法人としても小学校2校で延べ3回の講演を実施した。

さらに県外の高校、大学では16校で実施ができたものの。新型コロナウイルスの影響で、リモート実施をした学校も含まれている。または中止も数校あった。

プログラムの開発については、クラウドファンディングで資金を募り、その成果として特別支援学校(学級)児童生徒向け予防教育プログラム「わたしのしあわせのために～きめるのはわたし～」と小学校低学年向け「わたしやぼくのしあわせのために」を開発した。早速、県内の中学校1校において、特別支援クラスの生徒たちに実施ができた。特別支援クラスの児童、生徒に対する取組みは、抱える課題が深刻なケースも多く、担当教員等との打ち合わせにかかる時間はかなり多くなる。

### (3) についての実施報告

DVの背景に生活困窮や個人の発達の課題が隠れていることが多く、また、離脱することだけがDV被害者支援とは言えず、新たなアプローチを検討しているものの、国も被害者支援と加害者プログラムがはっきりしない中での取組みは難しいと感じた。今後、はっきり言えることは、家族個々人の抱える課題を重層的に支援していくことが重要と考え、来期はそのような視点で取組みを進めたい。

### (4) についての実施報告

上述(3)に加え、来期は、福岡県太宰府市で相談業務を受託する予定である。離脱のみではないDV被害者支援や、SNS相談など若い人たちへの支援にも力を入れたい。

以上